

今週のメニュー

■トピックス

◇J P E C研修会が東京、大阪、名古屋で開催

ー塩ビの最新情報、経営資源とデザインの関わりやビジネスへの事例を紹介ー

塩化ビニル環境対策協議会事務局

■随想

◇古代ヤマトの遠景（85）ー【歴代天皇と伊勢神宮（3）】ー

木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇J P E C研修会が東京、大阪、名古屋で開催

ー塩ビの最新情報、経営資源とデザインの関わりやビジネスへの事例を紹介ー

塩化ビニル環境対策協議会事務局

塩化ビニル環境対策協議会(J P E C)主催の研修会を、3月4日は東京の如水会館、3月6日は大阪の阪急グランドビル、3月13日には名古屋の国際デザインセンターでそれぞれ開催しました。いずれの会場も40名を超える方々の参加を頂きました。

J P E Cでは会員団体の会員の方々や塩ビの製品に関係されている皆様に、塩ビを取巻く最近の状況を紹介し、外部の講師を招き講演会や研修会を開催しています。

東京・大阪・名古屋とも、まず「塩ビをめぐる最近の状況」をテーマに、日本の塩ビ出荷状況や世界各国の需要動向、「PVC Design Award（塩ビものづくりコンテスト）」をはじめとする新たな取り組みなどについて説明を行い、その後デザインに関する講演をして頂きました。

東京では(株)GKインダストリアルデザイン相談役の田中 一雄氏が「経営資源としてのデザイン」と題して講演。田中氏は塩ビ業界が実施している PVC Design Award に後援を頂いている、日本インダストリアルデザイナー協会(J I D A)の理事長です。富山ライトレールの導入時に行った、車両のデザインだけでなく市民を巻き込む仕掛け作りを含めてビジネスモデルを構築していく事例を紹介頂きました。

大阪の研修会では、地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター デザイン主任研究員の秋山 正氏が、「企業経営とデザインの活用について」と題し講演。経営とデザインの新しい関係や、足立区・葛飾区など地域に根ざしたものづくりについて紹介頂きました。

名古屋の研修会では(株)コボ 社長の山村 真一氏が「企業戦略とデザイン」と題し講演。製品にデザインの力を



東京会場



大阪会場

加える事で今までとは違う大きな製品として販売を伸ばした業務用洗濯機の事例を紹介頂きました。

研修会に参加された方からは、塩ビの現在の需要の状況や新しい製品用途などに関し継続的な情報発信を望む意見や、企業とデザインの関わりについてとても参考になったとの意見が寄せられました。

今後もJPEC加盟団体の会員会社や塩ビを使って頂いている多くの方々に、塩ビに関係する情報を発信すると同時に皆様からのご意見を頂戴する情報交換の場として続けてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



名古屋会場

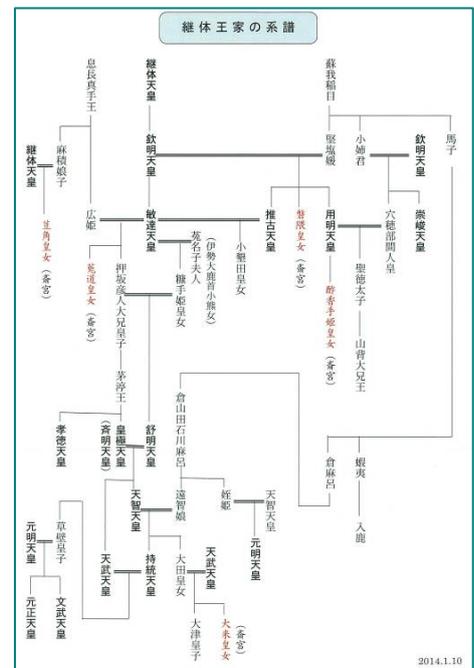
■ 随想

◇古代ヤマトの遠景（85）－【歴代天皇と伊勢神宮（3）】－

木下 清隆

5) 用明天皇

用明天皇は、蘇我稲目の女、堅塩媛と欽明天皇との間の皇子で、先帝の敏達天皇とは腹違いの弟である。書紀はこの天皇について、「天皇、仏法を信じ神道を尊びたまう」と記している。天皇が蘇我氏の立場として仏法を信じていたのは当然といえるが、更に継体王家が進める初代倭王への回帰に対しても深い理解があったらしい。敏達天皇の崩御と共に皇位を継承すると、直ちに酢香手姫を伊勢神宮に遣わしているのは、このような深い理解があったからだといえよう。酢香手姫は葛城直磐村の女広子と用明天皇との間に生まれた皇女であるが、この姫によって後世に整備される齋宮制度の雛形が作られたといえよう。彼女は、用明・崇峻・推古の三代に亘り、実に三十七年間も日神の祀りに仕えたとされている。最後は郷里の葛城に戻りそこで亡くなった。



継体王家の系譜：クリックで拡大

何故、かくも長期にわたって伊勢に留まったのか。その理由は全くわからない。しかし、これまでの経緯からみて、強制されたものでないことは確かだといえよう。では何が彼女をそのような行動に駆り立てたのか。恐らく、彼女は日神となった初代倭王の側に居ることが、心休まることだったのでなかろうか。伊勢神宮での祭祀が楽しかったのではなかろうか。要するに日神に対する特別の感情があったと考えられる。人の世が煩わしかったのかもしれない。都に残れば、権力の道具としてしか扱われない女の立場が、悲しかったのかもしれない。

当時は、まさに蘇我氏の勃興期である。敏達天皇の後は筋から行けば、天皇の皇子押坂彦人大兄へ継承されるはずのものが、高齢の用明天皇に皇位は移った。これは当然、蘇我氏の強い横槍で実現したものであろう。結果的に用明・崇峻・推古の三代の天皇を生み出すことに成功し、蘇我氏はその権力を謳歌出来る時代を切り拓いた。しかし、推古天皇の後は非蘇我系の舒明天皇へ皇位は移った。

このような時代の流れを酢香手姫はどのような思いで、伊勢の地から眺めていたのだろうか。都での話は結構彼女の耳にも入ったはずである。だから、都は嫌いだと思う一方、長くなる自分の伊勢滞在に、何度か都へ帰ることも考えたはずである。しかし、自分が戻っても推古天皇の下には年若い皇女はいないし、天皇自身が伊勢神宮の祭祀に理解があるとも思えない。やはり自分が日神のお側でお仕えしよう。このような思いで酢香手姫は三十七年間も伊勢に留まることにしたのではなかろうか。最後は、体の衰えから故郷に戻ったということであろう。

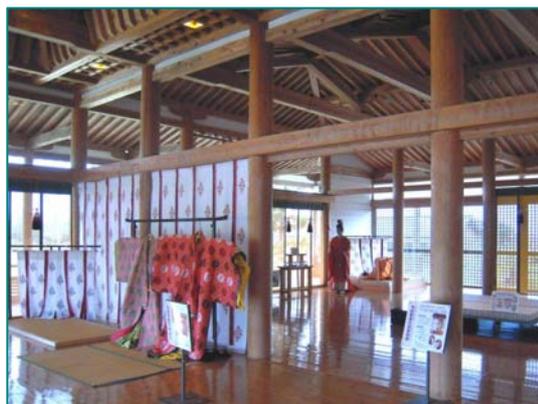
理由はどうであれ、酢香手姫が三十七年間も伊勢に留まったことで、結果的に居所としての齋宮が造られたはずである。齋宮・齋王なる語がいつ頃生まれたのかは定かではないが、この当時、未だこのような呼び名は無かったものと思われる。しかし、名称は何であれ酢香手姫の日常生活の場としての宮らしきものは、この時代に築造されたといえよう。齋宮制度は天武朝になって形を整えるが、酢香手姫の業績が大いなる前例として制度の中へ取り入れられたと考えられる。

さいくう ＜齋宮＞

齋宮とは、^{さいおう}齋王（いつきのみこ）の御殿と、その事務を取り扱う齋宮寮という役所とを合わせた呼び名ということになっている。しかし、これは齋王制度が整備されるようになった天武朝以降の話であって、酢香手姫の時代においては、役所的機能は殆ど無かったと考えられる。

この齋宮の跡地は、比較的最近まで判明していなかったが、昭和44年の大規模宅地造成の事前調査で発見され、昭和45

年（1970年）から本格的な発掘調査が進められた。そして、昭和54年（1979年）には、東西2km、南北700m、面積は137ha（約41万坪）にも及ぶ広大な規模であることが確認された。現在、その地域全体は国の史跡に指定されている。場所は近鉄山田線の松阪駅



いつきのみや歴史体験館 館内展示



いつきのみや歴史体験館



齋宮全体模型



齋宮屋外模型

と外宮前の伊勢市駅のほぼ中間点に位置し、この遺跡のために齋宮駅が設けられている。駅前には「いつきのみや歴史体験館」があり、この時代の衣装や住まいを体験できるようになっている。この地から内宮までは直線で約15kmも離れており、何故こんな遠い場所に宮を置いたのか不思議である。この場所が選ばれたのは八世紀末のこととされているが、酢香手姫の時代はもっと近くにその居所はあったとされている。

齋宮が 40 万坪を超える規模であったことは驚きであるが、これは、たった一人の齋王のために、500 人以上の官人達がそれぞれの役職で働いていたからである。事務方の齋宮寮は、「寮頭^{りょうのかみ}」以下の官人と、財政・警備・食事・医療などを担当する十二の「司」から構成されていた。これとは別に、神事を執り行うのは齋王以下、「主神司^{かみのつかさ}」を中心とする官人達である。当然、齋王に仕える女官が多かったようであるが、それにしても巨大な陣容であり、地方の国府より遙かに大きな組織であった。

次に興味が湧くのは、齋王は一年のうち一体何回、伊勢神宮の祭祀に奉仕したのだろうか、という問題である。これが驚くほど少ない。それは、六月の月次祭^{つきなみのまつり}、九月の神嘗祭^{かんなめのまつり}、十二月の月次祭のたった三回だけである。一回の内訳は、一日を外宮、一日を内宮の祭祀に参加したことから、年間六日の奉仕だったことになる。回数にすれば年間三回だけ、齋王は齋宮を出て神宮に赴いたということである。

たったこれだけの役割のために、これほど巨大な組織を構築し、経費を掛けたということは、些か理解に苦しむ制度である。しかし、考えてみれば、名実ともにヤマト国家を成立させた天武天皇にしてみれば、天下の人身を収攬するための国家的なシンボルが必要であったということである。それが伊勢神宮であり、その祭祀であったと考えれば、ある程度この巨大システムの持つ意味は理解される。次の持統天皇によって、天照大神が女神に変えられたことで、倭国の歴史は根底から覆されたが、国家祭祀という面から見ると、男神でも女神でも良かったと言うことである。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

毎年、日本生産性本部が発表している新入社員のタイプによれば、2014 年は「自動ブレーキ型」だそうです。知識豊富で敏感。就職活動も手堅く進め、そこそこの内定を得ると、壁にぶつかる前に活動を終了。何事も安全運転の傾向がある。人を傷つけない安心感はあるが、どこか馬力不足との声も。自分が社会人になった時はどうだったのか気になり辿ってみると、「瞬間湯沸かし器型」。特徴は、新式と旧式の二種類存在し、反応・熱意が正反対。就活の意識調査を基にしているようですが、未来ある若者には、型にはまることなく個性を発揮して欲しいと願っています。(鈴蘭)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp